

『学習室』

作・木村 繚真

【登場人物】女性5、男性1、不問1

菅原 あゆみ

安東 ゆいこ

友井 玲

テラコ (寺井)

ムック (村上)

長谷川 さち

岡野先生

音楽と共に幕があく。  
次々とニュース音声（事故、戦争、火災、地震、テロなどを伝えるもの）が音楽に重なって聴こえてくる。やがてゆつくりと、舞台にあかりがともる。音楽とニュース音声小さくなるにつれ、屋外から運動部の声や吹奏楽部の楽器の音が聴こえてくる。

舞台は初夏、高校の学習室。キヤスター付きの長机が4つ以上、椅子は最少の数が配置されている。ゆいこ、玲、さちがそれぞれ離れた席で勉強している。さちの席は隅っこで、見えにくいところ。テラコもいるが机の陰に隠れ、床に座ってゲームをしている。

そこへ、上手後方の出入り口からあゆみがやってくる。ゆいこの姿を確認すると背後から近づき、目隠しをする。

ゆいこ (イヤホンを外し) あゆみ。

あゆみ なんて分かったの。

ゆいこ 温度。

あゆみ 温度？

ゆいこ あゆみの手あつついから。

あゆみ そう？

ゆいこ 自分じゃ分かんないでしょ。

あゆみ 変なの。

ゆいこ なにが。

あゆみ 体温で誰か分かるって気持ち悪い。

ゆいこ そういう言い方するとそうだけどさあ、ってか何しに来たの。

あゆみ 何って、ここをどこだと思ってる。

ゆいこ 学習室。

あゆみ 学習室といえど？

ゆいこ 学習。

あゆみ その通り。

ゆいこ でもあゆみ学習しないじゃん。

あゆみ ヒドいこと言うね。

ゆいこ ヨーグルトの蓋開けるときいっつもビヤッ！ っとなってるじゃん。

あゆみ そんなの可愛いもんじゃない。  
ゆいこ シヤープペンの芯を先っぽから入れようとして毎回折っちゃうし。  
あゆみ まあまあ無邪気なもんじゃない。  
ゆいこ 中間テストで赤点5つも。  
あゆみ ご愛嬌でしょご愛嬌。  
ゆいこ 今日岡野先生とケンカしたでしょ。  
あゆみ なんて知ってるの。  
ゆいこ 噂になってる。  
あゆみ みんな暇人だねえ。  
ゆいこ もうやめときなよ。  
あゆみ 嫌だ。  
ゆいこ 目が合うたんびにケンカして、全然懲りないの？  
あゆみ 次やったら親呼び出しだって。  
ゆいこ だったら尚更、  
あゆみ 関係ない。  
ゆいこ あゆみさ、パブロフの犬って知ってる？  
あゆみ 犬の実験でしょ？ パブロフさんちの。  
ゆいこ ベルを鳴らしてから餌をあげるっていうのを繰り返してたら、ベルの音を聞いた  
だけで涎垂らすようになっただって。  
あゆみ 条件反射か。  
ゆいこ そうそう。  
あゆみ 私も梅干見たらウーッ。  
ゆいこ 唾液の量をはかってたんだって。  
あゆみ 暇人だねー。  
ゆいこ でもロシア人で初めてノーベル生理学と医学賞を受賞したんだよ。  
あゆみ 詳しいな。  
ゆいこ さつき生物の授業で聞いた。  
あゆみ ふうん。  
ゆいこ だからあゆみもさ、岡野先生の足音聞いたら逃げればいいじゃん。  
あゆみ 逃げればいいじゃんって、そういう問題じゃないんだよ。  
ゆいこ として。  
あゆみ いいよ、もうその話は。  
ゆいこ えー。  
あゆみ それよりこれ（ゆいこの机に置いてある瓶を取って）、何？ 砂糖？  
ゆいこ ふうん。  
あゆみ じゃあ、塩？（蓋を開ける）  
ゆいこ おじいちゃん。

間

あゆみ え？  
ゆいこ おじいちゃん。  
あゆみ おじいちゃんって、あの、いわゆる人間のおじいちゃん？  
ゆいこ うん。おじいちゃんのお骨。

ゆいこ、蓋を閉めそつと机に瓶を戻す。

あゆみ こわい！

ゆいこ えー。

あゆみ なんでそんなの持つてるの！

ゆいこ なんですって、

あゆみ しかも瓶に入れて。

ゆいこ これ苳ジャムのやつ。

あゆみ 知らないよ。

ゆいこ ほかになくってさ。

あゆみ ちゃんと洗ったの？

ゆいこ 洗ったよ、洗剤つけてゴシゴシ洗ったよ。

あゆみ マジか。

ゆいこ マジだよ。

あゆみ ……初めて見た、人間の骨って。

あゆみ、しゃがんでまじまじと眺める。

玲がやってきて、咳払い。

あゆみ あ、友井さん。

玲 菅原さん。

あゆみ 今日も怖い顔だね。

玲 なんでだろうねえ。

あゆみ なんででしょうねえ。

玲 菅原さんのせいなんだけど。

あゆみ ごめんなさい。

玲 口ばっかり。

あゆみ そんなことより、

玲 そんなことって、ここは学習室なんだから静かにしてよ。

あゆみ これ見て。

玲 何。

あゆみ なんだか分かる？

玲 ……砂？

あゆみ ぶーっ、外れ。

玲 えー？

あゆみ ヒント。普通瓶には入れません。

ゆいこ あのさ、おじいちゃんできズ出すのやめてくれない？

あゆみ だめ？

ゆいこ なんか罰当たりっぽくない？

あゆみ 苳ジャムの瓶に入れてる時点でそれは……

ゆいこ えっ。

玲 ねえ、おじいちゃんとか罰当たりってどういうこと？

あゆみ それさ、ゆいこのおじいちゃんなの。

玲 ……えっ!?

玲、思わず手を引つ込ませ、瓶が宙に。  
なんとかあゆみがキャッチ。

あゆみ セーフ！

3人 おおーっ。

ゆいこ 貸して。

ゆいこ、瓶の無事を確認する。

玲 ごめん、反射的に……

ゆいこ ううん。あゆみが悪い。

あゆみ ごめんよ。危うくおじいちゃんを箒で集めなきゃいけないところだった。

玲 冗談にならない。

あゆみ 申し訳ない。

玲 それ、遺灰ってことだよね？

ゆいこ うん。

玲 なんで？

ゆいこ なんかも、珍しいから。

玲 珍しいからって、

あゆみ それはさすがにどうかと思うぞ。

ゆいこ だって普段見る？ 人の骨って。

玲 見ないけどさ。

あゆみ お別れしたくないーとか泣ける理由かと思ったのに。

ゆいこ それもあるよ？ もちろん。でも、「あつ、骨だ。これが骨か」って。

玲 まあねえ。

ゆいこ おじいちゃんが釜から出てきたら、きれーいに残ってたの、背骨が。こう、ぐわーんって。あんなに綺麗に残るの見たことないって、火葬場の人も言ってた。

玲 そうなんだ。

あゆみ その時こっそり貰ったの？

ゆいこ うん。

玲 安東さんって結構クレイジーね。

ゆいこ だって気にならない？ この皮の中には、生々しいものがいっぱい詰まってるんだよ。瓶の中の苺ジャムみたいに。自分の大事なものに、ほとんどの人は見たことがないの。

あゆみ 中学のときカエルの解剖やった？

玲 あー、やった。

あゆみ 気持ち悪かったよね。

玲 やめてよ、思い出したくない。

ゆいこ でも「グロテスク」って、「美しい」と紙一重なんじゃないかなあ。

あゆみと玲、ちよっと引く。

テラコ 一理ある。

あゆみと玲の背後にはテラコが立っている。

あ・玲 わっ！  
テラコ 人の指が20本、手足は4本。蜘蛛は8本、タコも8本、イカは10本。  
あゆみ ムカデは？  
テラコ 種類によってだいぶ違う。  
玲 ちなみにタコもイカも、あれは全部腕なのよ。  
ゆいこ へえ。  
テラコ 常識から外れたものに反応する。それが嫌悪か好感か、感じ方は人それぞれ。  
あゆみ 寺井さんだっけ。  
テラコ テラコって呼んで。  
玲 いつ入ってきたの？  
テラコ 友井さんより先にいた。  
玲 え、気づかなかった。  
ゆいこ ねえそれゲーム？  
テラコ (ゲーム機を見せて) スカットモンスター2。  
あゆみ あ、聞いたことあるー。10年ぶりの新作とか。  
テラコ そうそう。  
ゆいこ 有名なの？  
テラコ 超傑作。  
あゆみ 見せて。  
テラコ うん。

ゆいこ、あゆみ、テラコのゲーム機を覗き込む。

玲 ねえあんたたちさ、ここ学習室なのよ。うるさくするなら出て行って。  
あゆみ 友井さんだって喋ってるじゃん。  
玲 菅原さんがうるさいからでしょ。  
あゆみ ハイハイ、あと5分ね。  
玲 外で喋ればいいじゃない。勉強してる人の迷惑も考えなさいよ。

そこへムックが入ってくる。

ムック あ。  
あゆみ あー、ムックじゃん。何してんの。  
ムック お前こそ何してんだよ。  
あゆみ ここは学習室よ。やることと言ったらゲームでしょ。  
玲 違うでしょ。  
ムック 岡野、かなり機嫌悪いぞ。  
あゆみ ハン、勝手に怒らせとけばいいよ。  
ムック あのな、八つ当たりされるほうはいい迷惑なんだよ。  
ゆいこ あゆみまた何かやったの？  
あゆみ やってないよ。  
ムック 確かにあいつの態度はムカつくよ。成績いい奴にはニヤニヤして、悪い奴には舌打ちしやがる。  
あゆみ だったら

ムック だからっていちいち文句言ったらキリないぞ。  
あゆみ 黙ってひれ伏せてってわけ？  
ムック 学習しろって言ってんだよ。

あゆみ 成長しないわよアンタ。

ムック お前がな。

あゆみ 部活サボってどうしたんですかー？

ムック サボってねえよ。

あゆみ じゃあ何しにきたの。

ムック 作文だよ。

あゆみ 作文？（ムックの手から作文用紙を取る）

ムック 現代文の課題だよ。

ゆいこ あー、あったあった。

あゆみ そんなの知らない。

玲 出してないの？

あゆみ 岡野の課題なんて無意味。

玲 徹底抗戦だね。

テラコ 私も出してないぞ。

あゆみ おおー、なかなか見所があるじゃないかテラコよ。

テラコ 『私の将来の夢』なんて小学生みたい。

あゆみ だよねー。

テラコ 私の夢は5次元にある。

ほか え？

テラコ まだ実態のない夢、本当の夢。意識を拡張・幻想夢想の輝く未来へ、プラグイン、

アップロード。電子の波から生まれるチカラ。ハック、トランス、リモデリング。

記憶の底から無限に生み出すニューロテクノロジー！

玲 何言ってるの？

あゆみ わかんない。

ムック また変なやつとつるんだな（あゆみから作文用紙を取る）。

ゆいこ 変なやつ？

ムック いやっ、安東さんのことを言ったわけじゃないんだ！

ゆいこ そう？

ムック そうだよ。

玲 ねえ、村上くんちってお寿司屋さん？

ムック なんて知ってるの。

玲 男子が言ってた。

あゆみ へえー、じゃあ行ったら割引してくれる？

ムック するわけないだろ。

ムック、席に座る。

ゆいこ 将来はすし職人かな？

あゆみ いいなあ進路決まってる。

玲 とりあえず勉強したら？

あゆみ 目的ないのに？

玲 選べる幅を広げとくんだよ。

あゆみ なーんか嘘くさい。  
玲 なんで今日そんな突っかかってくるの？  
あゆみ ってかなんでこんなところで勉強してんの？  
玲 そっちが場違いなんでしょうが。  
あゆみ 家のほうが快適じゃない？  
玲 ……。  
あゆみ ちよつと、なんか言い返してよ。  
玲 別に、私の勝手でしょ。

玲、席に戻る。  
あゆみとゆいこ、目を合わせて首をかしげる。  
テラコはいつの間にか隅っこでゲームに夢中。

ゆいこ それで？  
あゆみ ん？  
ゆいこ どうしたの？  
あゆみ どうもしないけど。  
ゆいこ なんかあったんじゃないの？  
あゆみ ……気になっただけ。放課後まで学校で勉強してる人たちは、どんな顔してるんだろうなって。  
ゆいこ 変なの。  
あゆみ そっちこそ変だよ。  
ゆいこ あゆみは期末テスト大丈夫？  
あゆみ 私さ、早めの夏休みに入るよ。  
ゆいこ どういうこと。  
あゆみ ……学校やめる。  
ゆいこ えっ？！

全員、ゆいこのほうを見る。

ゆいこ (小声で) 本気で言ってるの？  
あゆみ 本気だよ。

あゆみ、窓を開ける動作(舞台正面に向かって)。  
外から運動部の声や吹奏楽部の音がかすかに聞こえてくる。

あゆみ (深呼吸して) もう夏だよ。見て、夏の雲。夏の風。夏の匂い。  
ゆいこ 親には言ったの？  
あゆみ 言った。  
ゆいこ そしたら？  
あゆみ 「ありえない」って。  
ゆいこ そりゃあ、ね。  
あゆみ なんかもう面倒だよ。  
ゆいこ 面倒だからやめるの？  
あゆみ 意味が分からないから。学校に来る意味。ってか、もっと根本的なのこ。

ゆいこ ……。  
あゆみ (笑み) 夏っていいよね。いろんなことがどうでもよくなる。終わりの季節。  
テラコ 始まりだよ。

いつの間にかテラコがいる。

テラコ 戦いの終わり。復興の始まり。reborn, recovery, restoration, relearning,  
repeat after me. 繰り返し、再び、何度でも。  
あゆみ ……。  
テラコ resurrection.  
ムック オイ、お前から何言ってるんだ。  
あゆみ お前には分からない。  
ムック は？  
あゆみ お前には分からない。  
テラコ 私、幽霊が見えるんだ。  
ほか えっ。

突然心霊の音楽、照明薄暗く。

テラコ 特に夏、彷徨う靈魂たちの叫びが聞こえる。  
ムック こいつ、何言ってるんだ。  
あゆみ 私にも分からない。  
ゆいこ 幽霊って本当にいるの？  
テラコ いる。ここにもいる。  
ほか えっ!?

テラコ、ゆつくりとさちのほうを指さす。

ほか いやいやいやいや。  
あゆみ でもあんな子いたっけ？  
ゆいこ わかんない。  
ムック 俺は知らないぞ。  
テラコ ここに住み憑いた、女の子。  
あゆみ 見えてる？  
ゆいこ 見えてる見えてる。  
ムック はっきり見えてる。  
あゆみ 勉強してるのかな。  
ゆいこ ぽいね。  
ムック 俺、靈感あったのか!

さち、4人のほうを振り向く。

4人 アアアアアア!

ムックを盾に女子3人、後ろに隠れる。

ムックは目を瞑りつつ、一応両腕を広げて女子たちを守っている。そこへ玲がやってきて、

怜 いい加減にしなさいよ！

あゆみ 友井さん後ろ、幽霊、幽霊っ……！！  
玲 あのねえ、

玲、さちに声をかけて立ってもらおう。

玲 こちら長谷川さちさん。私たちと同学年よ。  
3人 え？

テラコはいつの間にかいなくなっている。  
照明・音響戻る。

さち (おじぎ)

ゆいこ え、じゃあ幽霊じゃないの？

玲 当たり前でしょ失礼ね。

さち (困った顔)

ムック なんだ、靈感なかったか……。

ゆいこ ごめんなさい。

さち (首をぶんぶん横にふる)

玲 村上くんは知ってるんじゃない？

ムック え？

玲 1年のとき同じクラスだったじゃない。

ムック ごめん、覚えてない。

あゆみ 私とは初対面、だよね。

さち (頷いて) あの……、

玲 ゆっくり。

さち (一息ついて) 私は、教室に、行ってません。

ゆいこ 保健室登校みたいな？

玲 そう。

ムック この学校そういうのあるんだ。

玲 (さちの前に出て) まあそんな訳だから、くれぐれも邪魔しないように。

あゆみ 保護者ぶっちゃって。

玲 何か言った？

あゆみ いいえ。

さち、玲、席に座る。

すぐさま、椅子を動かしてさちに近づくあゆみ。

あゆみ 長谷川さん。

さち (驚く)

あゆみ サっちゃんって呼んでいい？

さち (頷く)

あゆみ サっちゃんって朝からずっとここにいるの？  
さち (頷く)

あゆみ お昼ごはんは？  
さち ほ……、

あゆみ 保健室？  
さち (頷く)

あゆみ そっかあ。

さち (手をあゆみに向け) 名前……、  
あゆみ 私は菅原あゆみ。あゆみでいいよ。  
さち (にっこり笑って、頷く)

あゆみ サっちゃんはさ、どうして教室に行けないの？  
玲 菅原さんドストレートね？！

あゆみ 何さ。  
玲 もうちよつと何かあるじゃない、「暑くなってきたね」とか。  
あゆみ 付き合いたてのカップルか。

玲 いや知らないけど。  
あゆみ 友井さん付き合ったことないの？

玲 ……。  
あゆみ ひゅー。

玲 何よひゅーって！  
あゆみ ういういしいなあって。

玲 いいじゃない別に、ほつといてよ。  
ゆいこ なになに、友井さんの恋愛話？

玲 違う！  
あゆみ 好きな人いないの？

ムック おっ、気になるな。  
玲 なんで集合してるのよ！ あっちいって！

さち、クスツと笑う。  
4人、それを見る。

さち、クスツと笑う。  
4人、それを見る。

ゆいこ 友井さんはどんなタイプがいいの？  
玲 タイプって？

あゆみ ムック、紹介してあげて。  
ムック よし。

ムック、前に出て

ムック、前に出て

あゆみ まず爽やか系。  
ムック アハッ！（前髪さらつ）今日もいい天気ですね。気持ちがいいや！

テラコも前が出る（ゲーム機をひたすらいじっている）

ムック ゲームかい？ いいね、僕にも教えてよ。

テラコ (無視)

ムック アハッ！ 無視かあー。なんって清清しいんだ、アハッ！

ゆいこ どう？

玲 どうって！

あゆみ あれが爽やか系よ。

玲 近づきたくない。

あ・ゆみ だよね。

あゆみ じゃあ続きまして、マッチョ系。

ムック アハッ！（力こぶ）

玲 一緒じゃない！？

あゆみ まあまあ。

ムック 今日も太陽が、微笑んでやがるぜ！ こんな暑い日は筋トレだな！ フンッ！

ムック、腕立て伏せ。

そこへテラコがゲームをしながら歩いてきて踏みつける。

ムック げふっ！ なんのこれしき！ ふごおっ！（持ち直して立ち上がり）お嬢さん。

歩きスマホは大変危険だ。私がお姫様抱っこしてあげよう！ ぐへへ。

テラコ、平手打ち。

ムック、客席に間抜けな顔に向けたまま静止。

あゆみ どう？

玲 全国のマッチョに失礼。

ゆいこ 偏見に満ち溢れてるね。

あゆみ だめか。次！ 執事系男子！

ムック メエー。

あゆみ 違う違う違う。

ムック え？

あゆみ しっじ！ あの「いらっしやいませご主人さま」的な。

ムック メイドじゃねえか。

あゆみ 何、執事わかんないの？

ムック わからん。

あゆみ じゃあいいや。パリピ男子やって。

ムック オッケ。

玲 何パリピって。

ゆいこ パーリーピーポー。

玲 パーリーピーポー？

ムック フウーッ！ 元気してるうー？

玲 却下。

ゆいこ はやい。

あゆみ じゃあ次、DS男子！

ムック フフフ、いい天気だな。靴を舐める。

玲 いる？ こんな人いる？

テラコ、ムックの靴を舐めようとする。

ゆいこ ちよつとそこ、舐めようとしな  
テラコ えっ。  
あゆみ ここは3次元だぞ。よくみて。

テラコ、ムツクの顔を見て舌打ち。

ムツク 舌打ち！？  
あゆみ じゃあ次はー、  
玲 ねえもういいよ。私男子に興味ないから。  
あゆみ あ、そうか。じゃあ女の子バージョンでー、  
玲 いや、恋愛に興味ないって言ってるの。特に男。

一同、ムツクを見る。

ムツク えっ。  
あゆみ まあー、  
ゆいこ うんー、  
テラコ そうねー、  
さち (頷く)  
ムツク オイオイオイ！  
玲 なんて浮気するの？  
ムツク エッ？  
玲 決まった人がいるのに、その上なんでほかにも要るの？ 理解できない。  
あゆみ (ムツクに) なんで？  
ムツク 俺に聞くなよ、ってか女だって浮気するんじゃないのか。  
あゆみ 男の浮気のほうがよく聞くけど。  
ゆいこ (ムツクに) 気持ちは分かる？  
ムツク 知らないけど、ほら、よく言うだろ？ 男は自分の遺伝子を多く残そうとするつて。

玲 ウエッ。  
あゆみ 出たよ。  
ゆいこ 生物学的観点ってやつ？  
玲 そういうことじゃないのよ。  
ムツク 俺たちには本能があるんだよ。  
テラコ 昔々のお話です。

音響・照明変化。ムツク、狩り、戦いの動き。

テラコ かつて男は狩りを行い、獣を家に持ち帰る。敵から縄張りを防衛し、生きるために戦って身を守っていた。繰り返される戦争、突然襲い来る病原菌。寿命は短いものだった。

その後ろに女たちがつき、洗濯や料理、子守をしている。

テラコ 女たちは養ってもらおう代わりに家事や子育てを行った。妻は一人ではないから、それらを分担して行うことができた。しかし安全で清潔な日本では、一夫多妻の合理性はない。

女たち、男から離れそれぞれが優雅に暮らす。  
男はあたふたとしている。

テラコ むしろ豊かで恵まれていた。女が山菜や果実を取り、家を持つて定住した。時は流れ、貴族の男たちは一生懸命に歌を詠み、あくせくと夜這いに回るのであった。ムック、ゆいこの家に入れてもらい、抱きつこうとするが、

テラコ しかし明治の頃になり、ようやく政府がこれを悪習とみなした。西欧から、「野蛮」と見られぬために。

ムック、両手首を合わせて俯き、逮捕された感じに。

テラコ また時は流れ、禁止された文化は廃れゆくのみ。そして現代、欲情を理由に浮気を認めていたら、現代社会は崩壊するの！

ムック なお、それは分かったけどさ、なんでそんなに怒ってるんだよ。

玲 ……恥ずかしい話よ。顔だけじゃなくて、全身の穴という穴から出火するような、最低の話。

あゆみ どうしたの？

玲 父親が浮気した。それを知って母は、私と兄が就職したら離婚するって言った。父は謝ったけど、裏で浮気は続けてた。そのうち母も諦めて、ほかの男と浮気した。毎日顔を合わせてるけど、もう家族じゃない。愛なんて、もう無い。

間。

玲 まあそういうわけで、恋愛なんてする気になれない。気持ち悪い。

あゆみ うん、その通りだ。

玲 え？

あゆみ 人間なんて最低だ！ な、ムック！

ムック お、おう！ 人間なんてな、進化し過ぎた憐れな生き物なんだよ！

ゆいこ まあ、結婚は義務じゃないし。したくなったらすればいいんじゃないかな。

玲 あれ、なんか私、励まされてる？

あゆみ そらそうよ、感謝しなさい。

玲 おしつけがましいな。

ムック っていうか寺井、お前長谷川に謝れ。幽霊じゃないだろ。

テラコ すまん。

さち (顔を横にぶんぶん振る)。

玲 謝り方。

ゆいこ どうして幽霊なんて言ったの？

テラコ 幽霊だから。

あゆみ いや、いるじゃん。サっちゃん生身だよ(さちをサスサスする)。

玲 サスサスすんな。  
テラコ あゆみも、幽霊だ。  
ゆいこ え？  
あゆみ 私も？  
ムック どういうことだよ。  
テラコ 私には透けて見える。

テラコ、あゆみの頭をむんずと掴む。

あゆみ あるでしょ、頭。  
テラコ あるにはある。でも密度が低い。  
ゆいこ 脳みその？  
玲 馬鹿ってこと？  
あゆみ おおーい！

あゆみ、振り払って、

あゆみ 私にも幽霊が見えるぞ！ ムックお前だ。  
ムック なんだよ。

あゆみ お前はバレー部だろう。部活に行け。

ムック だから作文提出しないと……、  
あゆみ どうして出さなかった。

ムック ……。  
あゆみ どうして出せなかった。

ムック 出したよ。出したけど、足りなかったんだよ、文字数が。

ゆいこ でもあれって……、

玲 原稿用紙1枚。400文字。

テラコ お前の夢はなんだ。

ムック なんでもいいだろ。

あゆみ よくない聞かせろ。

ムック なんだよ。

あゆみ 私も幽霊だからだ。聞かせろ。

……すし職人って書いた。でもそれは俺の夢じゃない。親の都合だ。俺は自分じや400文字さえ埋められない、すっからかんなんだ、漠然と、小さいころから思ってた。将来はもう決まってるって。なんとなく、それに救われてた気もするし、でも本当は、息苦しかったのかもしれない。改めてみて、俺には夢がない。400文字は多すぎる。

間。

ゆいこ 村上くんはさ、お寿司好き？

ムック ……食べ飽きた。

玲 贅沢だな。

ゆいこ 私のうちはね、子どもの誕生日にお寿司を食べるの。おじいちゃんが奮発して。村上くんちにも行ったことあるかも。

ムック 知ってたら、割引したのに。  
あゆみ さつきしないって！  
ゆいこ だからね、お寿司にはいい思い出がたくさん。おじいちゃんはイクラが好きで、  
ムック おばあちゃんにはブリが好き。お母さんはエビ、お父さんはマグロ。  
ゆいこ 私と妹はアナゴ。  
玲 アナゴかぁー。  
テラコ 私はイカ。  
あゆみ えー、固くない？  
テラコ 甘くておいしい。  
あゆみ 私はタマゴ。  
玲 安上がりだな。  
あゆみ じゃあ玲ちゃんは？  
玲 ウニ。  
あゆみ うえー。  
玲 おこちゃま。  
ゆいこ 長谷川さんは？  
さち ……いなり寿司。  
あゆみ いいねー。  
玲 安上がりだなー。  
テラコ (ムックに) お前は何が好きだ。  
ムック ……ガリ。  
ほか ガリ？！  
あゆみ タダじゃん！  
ムック うるせえな。好きなんだよ、ガリ。  
ゆいこ 私は、いいと思うな。すし職人。かつこいいじゃん。  
ムック かつこいい、かな？  
ゆいこ うん。

ムック、照れる。

玲 え、何、村上くんって安東さんのこと好きなの？  
ムック は！？  
テラコ ドストレート。  
あゆみ 玲ちゃんはつきり言いすぎ。  
玲 え、ごめんダメだった？  
ムック ちよつと待て、そんなんじゃないから。  
ゆいこ そんなじゃないの？  
ムック え？！  
あゆみ あはは、滑稽だなムックよ。  
ムック あーもう！

ムック、席に座って机に伏せる。

あゆみ あたしや羨しいよ。仮にも目指すものがあってさ。

玲 菅原さんはないの？  
あゆみ ない。玲ちゃんあるの？  
玲 私はある。

あゆみ 何。  
玲 教師。

ゆいこ へえ、似合ってる。

あゆみ 意地悪な教頭先生って感じ。

玲 文句ある？

あゆみ いいえ。

ムック 安東さんは？

ゆいこ 私は救急医。

玲 へえ、専門分野まで決めてるんだ。

ゆいこ うん。

あゆみ 将来が楽しみねえー。

ムック 近所のおばさんか。

あゆみ うるさいなあ。

テラコ もう、来年には受験生。

玲 ついこないだ入学したのに。

ゆいこ 早いもんだ。

あゆみ サっちゃんは？ 進路、どうする？

さち ……わかりません。

あゆみ サっちゃんはさ、どうして教室に来ないの？

さち ……それは、

照明・シルエット、同時におどろおどろしい音楽。

さち以外、操り人形のような動きでさちに迫る。

逃げ回るさち、正面中央に来たところで1人に追いつかれ腕を掴まれる。

照明、さちを照らす。

さち

人前に出ると頭が真っ白になって体はガチガチに固まって動けなくなる、至るところの神経が興奮状態で脳も筋肉も嘘みたいに緊張して固くなって全身が、ウツ……！！

更に後ろから胴や足をガッチリと掴まれる。

さち

脚が動かない、お腹が締めつけられる、息苦しくなってくる、人の、声が、世界が、遠くに……ウツ！

最後の一人が背後から両手でさちの首を絞める。

さち

カッ、カッ……。

首を絞めている者が片手を離し、人差し指をさちの唇に当て、

全員

シート。

絡みついた者たちは一斉にさちから離れ、闇に去っていく。  
さちはその場に崩れ落ちる。ゆらゆらと立ち上がり、俯く。照明戻る。

さち 中学、高校と、あがるたびに、ひどくなりました……。

玲、さちの背中に手を添える。

ムック 友井はいつから知ってるんだ。

玲 一カ月くらい前。それまで保健室登校だったんだよね。

さち (頷く)

あゆみ なんて場所変わったの？

さち ここなら、放課後、ちよつとだけ人が来る。仕切りもあるし、喋らなくていいし

……、だから、リハビリ。

テラコ Rehabilitation。

ゆいこ だから友井さんあんなに静かにしてって言ったんだ？

玲 まあね。

ムック その割に結構うるさかったよな。

玲 それは菅原さんが

あゆみ サっちゃんさ、辛いよね。

さち ……。

あゆみ 辛いのにさ、なんでそうまでして学校なんか来てるの？ 意味ある？

ゆいこ あゆみ。

あゆみ 夢がどうのこうの、アンタそんな状況じゃないよね？

玲 ちよつと！ 長谷川さんがどんな思いでいるか知らないでしょ。

あゆみ 知らないよ、だから聞いてるんだよ。

玲 放っておけば？ ズカズカ入り込んで、アンタみたいな自分本位の無神経なやつ

がいるからこうなってるんじゃないの？

ムック 「こうなってる」って、言い方はどうなんだよ……。

さち 私は、(深呼吸) 私は、こんな自分が嫌……、自分が、嫌。

照明・ゆっくりと夕方の色を帯びていく。

さち みんなみたいに、話したい。

テラコ、さちを指差して

テラコ 生き返った。

テラコ、さちの傍によってしゃがみ、

両手でさちの頬を挟んでムニムニしてパツと放す。

テラコ やわらかくてあったかい。

さち、思わず笑って、

さち ありがとう。

テラコ、にこにこことふらふらと机の陰に戻っていき、ゲームを再開する。

あゆみ うらやましい。戦う理由があつて。

あゆみ、学習室を出て行く。

ゆいこ あゆみ！

ゆいこ、すぐ机の上を片付ける。

ムック あいつどうしたんだよ。

ゆいこ あゆみ、学校やめるって……。

ほか え？

玲 なんて。

ゆいこ 学校に来る意味が分からないって。

間。

ゆいこ とにかく話してみる。

玲 放っておけば？

ゆいこ それは、教師としてどうなの？

玲 ……。

ムック 岡野みたいになるなよ。

チャイム。

それと同時に岡野先生が入ってくる。

先生 おーう、お前ら下校の時間だぞー、帰れー。……なんだ、どうした。

ゆいこ いえ。さようなら。

ゆいこ、去る。

先生 お前は何してるんだ。

ムック 作文です。

先生 まだ書いてないのか、まったく、それくらい書けないでどうするんだ。(窓とカーテンをしめていく) おっ、友井もいたのか、熱心だなあ。爪の垢でも煎じて村上に飲ませてやってくれ、ガハハハ。(さちを見て) えっとキミは……うん、キミも気をつけて帰るんだぞ。日が長くなつたからといって、夜は夜だ。あぶないぞ。さ、帰れ帰れ(村上の背中を押す)。

村上、玲、さちは鞆を持って出て行く。岡野も電気を消して出て施錠。照明・薄明かり。ゲーム機の明かりが見える。携帯のバイブ音。

テラコ はい。いま、友だちんち。うん、泊まる。ううん、ちゃんとお礼は渡した。  
……いいから、はい、じゃ。

溶暗。

溶明。早朝。舞台中央にテラコが大の字で眠っている。  
さちがやってくる。

さち (袖のほうに向かって) あ、ありがとうございます。

さち、テラコに気づく。

さち えっ!?

さち、テラコの顔を覗き込むと突然起き上がるテラコ。

さち わっ!

テラコ ……。

辺りを見回すテラコ。

テラコ おはよう。

さち ……、

テラコ (あくび)

さち おはよう。

テラコ、携帯で時間を確認。

さち 寝てたの?

テラコ うん。

さち と、泊まったの?

テラコ うん。

さち ど……、

テラコ ど?

さち (首と手を横にぶんぶん振る)

テラコ 家に帰りたくなかったから。

テラコ、立ち上がり、カーテンと窓を開ける。

雨の音。

テラコ 雨が降ると「天気が悪い」って言う。

さち (頷く)

テラコ 天気にも悪いもないのに。

さち ……うん。

テラコ 贅沢なのかな。return。世の中には帰りたくても帰れない人がたくさんいるのに。

さち ……、  
テラコ なんつって。

テラコ、去ろうとして

さち いいと思う。

立ち止まり、

さち テラコさんは、テラコさんで。

テラコ、微笑んで去る。

さち、悔しそうな表情で頭を掻く。

鞆を降ろし、ほかのカーテンを開く。掃除用具入れから雑巾を取り出し、

一旦部屋から出る。

戻ってきて机などの水拭きを始める。

外からちらほらと「おはようー」などと生徒たちの声が聞こえる。

さち、少し窓から顔を出して覗く。  
間。

さち いいなあ。

そこへゆいこがやってくる。

ゆいこ おはよう。

さち え？

ゆいこ あゆみ、来てないか。

さち ……何か、あったんですか？

ゆいこ 昨日連絡つかなくて。

さち どうして、ここだって。

ゆいこ なんとなく、あの子の考えそうなこと。

さち ？

そこへあゆみがやってくる。

あゆみ おはようー！

ゆ・さ あ。

あゆみ 今日からこのクラスの一員です。よろしく。

あゆみ、さちと握手。

あゆみ 机拭いてたの？ 私やるよ。

あゆみ、机を拭き始める。

ゆいこ あゆみまさか、学習室登校するとか言わないよね。  
あゆみ 学習室登校する。  
ゆいこ 許可とったの？  
あゆみ 取ってない。  
ゆいこ じゃあ無理でしょ。  
あゆみ 意味がない。  
ゆいこ え？  
あゆみ 教室には意味がない。  
ゆいこ なんだ。  
あゆみ 学ぶことがないから。  
ゆいこ 授業は？  
あゆみ ここにいたほうが（さちを見て）、面白そうだ。  
さち え？  
あゆみ 世界はうちらを験してるんだ！  
ゆいこ ……停学になっても、知らないからね。  
あゆみ もともとやめるつもりだったから、平気。  
さち あの……、  
ゆいこ よろしく。  
さち えっ。

ゆいこ、さちの肩を叩いて去る。

あゆみ さあ、今日が始まりの日だ！

音楽。

あゆみ、雑巾を持って部屋を出る。  
さち、窓を閉める。鞆から筆記用具と教科書、プリント数枚を取り出す。  
あゆみ、戻ってきて片付け、同じく鞆から勉強道具を出す。  
2人は勉強を始める。  
しばらくして遠くから岡野先生の声が聞こえる。

先生 すーがーわーらー……！！  
あゆみ ん？ 何か聞こえた？  
さち （首を傾げる）  
先生 すーがーわーらーあ！  
あゆみ げ、この声は。

2人、入り口のほうを見る。

さち あっ。

岡野先生入る。

先生 菅原アーツ！！

さち、先生の迫力に圧倒される。

あゆみ おはようございます。

先生 お前は本ッ当に何をやってるんだ！

あゆみ ここをどこだと思ってますか。

先生 学習室。

あゆみ 見てください、学習してます。

先生 お前一人で正しく理解できるのか。

あゆみ はい。

先生 いや無理だ。

あゆみ どうして決めつけるんですか。

先生 分かっているからだ。

あゆみ 何をですか。

先生 全部だ。

あゆみ じゃあ質問です。ビルから飛び降りようとしている人は、どうしたら助けられま

すか。

先生 なんだよ、それは。

あゆみ 先生なら答えてください。

先生 屁理屈ばかりこねるな！

あゆみ 世の中屁理屈ばかりじゃないですか！ 筋の通らない不条理ばかり！

先生 ここ（教科書）に書いてあること、覚えてホントに意味ありますか？ それより

あゆみ もっと大事なこと、あるじゃないですか。

先生 いい加減にしろ。

あゆみ 教えてください。

先生 やめろ。

あゆみ 先生。

先生 やめろ！

さち 先生！

照明、先生のみを照らす。

背後から生徒たちが「先生」と叫びながら駆け込んでくる。先生の手足、胴、頭などを掴む。

先生 やめろ……！！

あゆみ 先生。

さち 先生。

ゆいこ 先生。

玲 先生。

ムック 先生。

テラコ 先生。

全員 先生ーッ！！

先生 アア……！！！！

先生は生徒たちを振りほどき、舞台中央にうづくまる。

さち 人間ってなんなんでしょう。こんなに複雑な生き物って、ほかにいないですよ。私だけついていけないのってそれはつまり社会不適合者ってことですか。突然変異の個体は、自然淘汰されるしかないんですか。

ムック 夢がなくてもいいですか。流れに乗ってなんとなく、自分の人生他人に任せて、やるべきことだけやればいいのか。分からないんです。人生この先、自分の意識がなくても生きていきますか？ がんばっていけるんでしょうか。

テラコ うち、父子家庭なんです。稼ぐために、父親あんまり家にはいないですよ。それでたまーに帰ってきたら、超飲むんですよ、お酒。酔っ払って、ぶたれるんですよねー私。もう参っちゃってほんと……、こんなこと言えないじゃないですかー？ そりゃ、頭おかしくもなりますよねー？

玲 先生。キスして。ダメ？ なんて。男でしょ。結婚してもキスはできるでしょ。女だったら誰だっていいんですよ？ なら結婚して何？ 愛って何？ どうして信じられるの？ 裏切られるなら最初から要らない。嘘になるならじゃあ……私 は一体、なんなの？

あゆみ なんにもしたくないんですよー。つまらないっていうか、意味わかんないっていうか、無気力。なんで私はみんなと違うんですかねー。みんなは生きることによって前向きで、疑問すらもたずに、当たり前前って顔してて……、眩しすぎる。

ゆいこ、瓶を取り出す。

ゆいこ これ、実はおじいちゃんだけじゃないんですよ。この中には、おばあちゃんもお父さんも、お母さんも妹も、みんな詰まってるんですよ。あの日、みんな死んじゃったんですよ。

先生、顔を上げる。

ゆいこ 正直、関係ないって思っていました。「事件」なんて、映画やドラマや演劇の「ネタ」でしょって。ずっと遠くの出来事だって、思ってた。でも違った。みんな昨日まで笑ってたのに、朝、みんなは目を覚まさなかった。煙が、炎が、ぜんぶ奪っていった。私だけ残して……。最後に、みんな食べた夕飯。テレビのチャンネル「ニュースは嫌だ」って、私が言ったら「もう大人なんだから知っておかんと」ってお父さんに怒られた。でも私はチャンネルを変えた。お笑い芸人がネタをやってて、なんだかんだでお父さんも笑ってて。お母さんはネタの意味わかってなくて、妹が詳しく説明してた。おばあちゃんは耳が遠くって、みんなの顔を眺めてニコニコしてた。おじいちゃんは、どこが面白いんだって顔して、黙々とご飯を食べてた。

ゆいこ、片手を広げて、

ゆいこ おじいちゃんは、みんなを助けようとした。手を握ってくれた。おじいちゃんは力いっぱい私の手を握ってくれた（握り締める）……もうすぐ死ぬのに。

生徒たち、客席へ向けて、

生徒たち 教えてください、先生。教えてください、先生！

先生、立ち上がる。照明・シルエット。  
生徒たちは素早く4つの長机を動かし、先生を取り囲む。

先生　　なんだ、何をやる。やめろ、やめてくれ！

長机は正方形を超えて風車のような形で先生を押し潰す。  
天に手を伸ばす先生。

先生　　アアア……！！

音楽。

生徒たちは舞台前方に長机を横1列に並べる。先生は駆け去っていく。  
生徒たちは等間隔に長机上に上半身を乗せ、自由に手や長机を叩く。

あゆみは下手側長机の端に立ち、右手ピースを天高く掲げる。

誰かの「よーおっ！」の一声で全員が同時に手を打つと照明戻り、静寂。  
以降、※までの間、あゆみは人差し指と中指で、人が歩く様子を模す。  
並べた長机は道。

あゆみ　よくあるじゃないですか。犬にかまれて、それ以来ずっと犬が怖いとか。

指、歩き始める。

道に犬（手でつくったもの）が現れる。道に現れるモノはあゆみ以外の人が担当  
する。

あゆみ　え、わっ！

ガブリと噛まれてしまう。

あゆみ　あーっ。

バタリと倒れ、すぐに立ち上がって道の始まりから再スタート。

あゆみ　犬は嫌いだ。避けて通ろう。

犬を飛び越えて歩くあゆみ。

あゆみ　へーんだ。あっ、信号赤になっちゃう！　急げー！

反対側から右折してきた車に撥ねられる。

あゆみ　ぎゃーん。

吹き飛ばされて犬にかまれる。

あゆみ いやあん。

這いずって道の始まりに戻る。

あゆみ いてて……もう、踏んだり蹴ったり！ 世の中は危険に満ち溢れている。心してゆこう。

再び歩き出す。犬を飛び越え、信号を待ち、先へ進む。着いた場所は海。

あゆみ よーし、釣りをするぞ！

左手で竿を振る。

あゆみ 今日はどんな大物がかかるかなあ。

すぐに魚が食い付く。

あゆみ あっ、きた！ えっ、あー逃げられた。畜生、これをこうしてこうしたら……よしできた！今度こそ！ そりゃ。

間。獲物がかかる。

あゆみ お、おお、おおおー！ そりゃっ！

釣れたのはフグ。

あゆみ なんだコイツ。膨れてやがる。あっ、棘もあるー！ かわいいやつめ。よし、コイツを「フグ」と名づけよう！ いただきまーす！

あゆみ、合掌してむしゃむしゃ食べる。

あゆみ ん？ ウツ！！

あゆみ、床に倒れる。

床を這って道の始まりに戻り、右手だけを出して

あゆみ 元気元気、超げんきー。スキップなんかしちゃったりして、オエー……。

あゆみ、げっそりした顔で長机の上に顔を出す。

あゆみ 死にかけた。でもおいしかった。また食べたい！

ダッシュで犬を飛び越え信号を待ち竿を振ってフグを釣る。

あゆみ ぐへへへ、いただきまーす！！※

あゆみ、1口食べてバタリと床に倒れる。  
生徒たち、順番に立ち上がる。

テラコ 人は経験を繰り返して、行動を修正してゆく。  
玲 より小さく、より不自由に。よりつまらなくなる。  
ムック できる事とできない事、得意な事、不得意な事が、少しずつ分かってくる。  
さち 1度できた透明な壁は、簡単には壊せない。

4人、長机を挟んで客席と舞台との間にできた「壁」に触れる。  
ゆいこ、立ち上がり、

ゆいこ 私たちはみんなガラス瓶の中に、閉じ込められている。死んだように。  
あゆみ 声は壁に阻まれて、反響して、自分に返ってくるだけ。  
6人 遠くから、眺めているだけ。

さち以外の5人、高く分厚い壁に絶望し、床にへたりこむ。  
さち、天に向かって手を伸ばす。  
そこに、ベルが鳴る。  
各自、長机上に這い上がってくる。餌を待つ犬のように。

ムック 聴こえたか？  
玲 聴こえた。  
テラコ ベルだ。  
ムック ベルが鳴った。  
玲 救いだ。  
テラコ 救われる。  
ゆいこ 違う。  
あゆみ ベルだよ、ベルが鳴った。扉を開けるベルが。  
玲 (天を仰いで) おおおーいっ……！！  
ムック 開けてくれ、頼むから開けてくれ！  
ゆいこ そんなわけないじゃない！

間。

ゆいこ みんなは、私を迎えにきてくれる人たちは、もう、死んだの……！！

ゆいこ、テーブルに遺灰の入った瓶をガンツ！と置く。

ゆいこ ベルが鳴ったからって、涎垂らして期待なんてするわけじゃない……犬はただの実験道具。縛られて、頬に管を通して、観察されてた……今も(客席を睨んで)、観察されてる……。犬よ、私たちはみんな犬よ……！！

間。

さち、ゆいこの手に手を添えて、

さち わん。

音楽。

ゆいこ、下唇をかみながら、さちの純朴な顔を見つめる。

ゆいこ かわいい、犬だなあ。お前は。

ゆいこ、さちの頭を撫でる。

あゆみ わん。

ゆいこ ……かわいくないー。

あゆみ 噛み付くぞ!?

ゆいこ、微笑む。みんなも、微笑む。

再びベルが鳴る。

6人は寄り添い、天を見上げ、見つめる。シルエット。暖かな色。

生徒たち、長机をゆっくりと動かし、学習室の配置に戻す。

みんな、礼をして去っていく。溶暗。

外から運動部の声や吹奏楽部の音がかすかに聞こえる。溶明。放課後の学習室。さちが勉強している。そこへ玲がやってくる。

玲 はい（本を渡す）。

さち どうだった？

玲 最高。

さち よかった。

玲 またおススメ教えてね。

さち うん。

ゆいこが入ってくる。3人、手を振り合う。

ゆいこは席について勉強を始める。イヤホンはつけない。

そこへあゆみがやってきて、ゆいこの背後から目隠しをする。

あゆみ だー

ゆいこ あゆみ。

あゆみ はやいー。

ゆいこ 声で分かるから。

あゆみ あそっか。

あゆみ、席に座ってノートと筆記用具と旅行雑誌を広げなにやら書き出す。

ゆいこ あゆみ。

あゆみ ん？

ゆいこ どうだった？

あゆみ どうって？

ゆいこ 期末テストだよ。

あゆみ そりゃみんなに勉強教えてもらったからさ、余裕で赤点回避よ。

ゆいこ おめでとうー！（拍手）

あゆみ ちよっ、

ゆいこ 友井さん長谷川さん、この人赤点回避だってー！

玲 うっそ、奇跡おきたじゃーん！

さち （拍手）

あゆみ 大げさだな。静かにしてよ、ここ学習室なんだから。

ゆいこ、玲、さち、顔を見合わせて笑う。

あゆみ そんなことより！ 夏休み、どこ行くー？！

ゆいこ （あゆみの机を見て） え、勉強してるんじゃないの？

あゆみ 当たり前じゃん。

ゆいこ えー。

テラコが入ってくる。

テラコ 夏といえは海。

玲 夏といえは花火。

ゆいこ 夏といえはお墓参り。

さち 夏といえは戦いの終わり。

あゆみ 復興の始まり。

ゆいこ 遠くへ行こう。自由に。どこまでも。

笑顔の5人。

—幕—